

海鳥の営巣数調査と営巣数変動要因調査

資料名	グリーンワーカー事業 (知床半島における海鳥の生息状況と観光船による影響に関する調査) 報告書
調査主体	環境省
評価項目	4 . 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること 7 . レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること
管理目標	ケイマフリは繁殖つがい数の大幅な増加を目標とし、減少傾向にあるウミウ、ウミネコは近年の最大営巣数への回復を目標とする。オオセグロカモメは他の海鳥繁殖への影響を監視しながら、登録時程度の営巣数維持を基準とする。
モニタリング項目	海鳥類生息状況の把握
評価指標	特定コロニーにおける急激な変動の有無（捕食者、人為的影響）
評価基準	急激な変動の有無

< 平成 2 0 年度までの具体的調査手法 >

○ 海鳥の営巣数

海鳥類の抱卵期後期から育雛期前半の期間の 5 月下旬から 7 月上旬に調査を実施した。フレペの滝周辺とウトロ港周辺は陸上から行い、他の地域は海上から調査を行った。

ケイマフリ海上分布調査は、5 月 14 日から 8 月 1 日の計 22 回の調査を行った。調査範囲はケイマフリが海上で生息するウトロ港からエエイシレド岬までとし、岸から約 1km を調査した。ウトロ港からブユニ岬間は直線的に航行し、ブユニ岬からエエイシレド岬間は往路は約 50m ~ 100m 沖を、復路は約 400m 沖を航行してカウントした。小型船舶を利用し 2 ~ 4 ノットの速度で航行し発見した個体の数・位置などの情報を記録した。なお、海岸線を基にして約 100m メッシュで海域を区切り、数を記録した。その他の海鳥の営巣分布調査の調査範囲は、ブユニ岬からエエイシレドまでの地域とした。その地域で営巣環境である崖が見通せる海上で停泊し、巣に出入りする親鳥を観察、巣の位置と数を記録した。

< 平成 2 0 年度までの具体的調査データ例 >

○ 海鳥の営巣数

・ オオセグロカモメ

2008 年の営巣数は 1154 巣 (2007 年は 1458 巣) であった。主な繁殖地は、ウトロ港周辺のオロンコ岩に 246 巣・ゴジラ岩に 16 巣などウトロ市街地に 338 巣、ブユニ岬 88 巣、知床岬に近い文吉湾の離岸堤で 134 巣そして羅臼側のメガネ岩北で 169 巣であった。文吉湾及び知床五湖の断崖においてヒグマが雛や卵を捕食しているとの情報を漁業者等から得た。

・ ウミネコ

2008 年の営巣数は知床五湖の断崖の上部に 64 巣と下部の石の浜で約 200 巣を確認した。また、オロンコ岩でも 6 巣を確認した (2007 年は 3 巣) 。 100 羽を超える巣数が確認されていた知床五湖の断崖において、7 月にヒグマが侵入して以降、親鳥、雛ともに全く観察されなくなった。

・ ウミウ

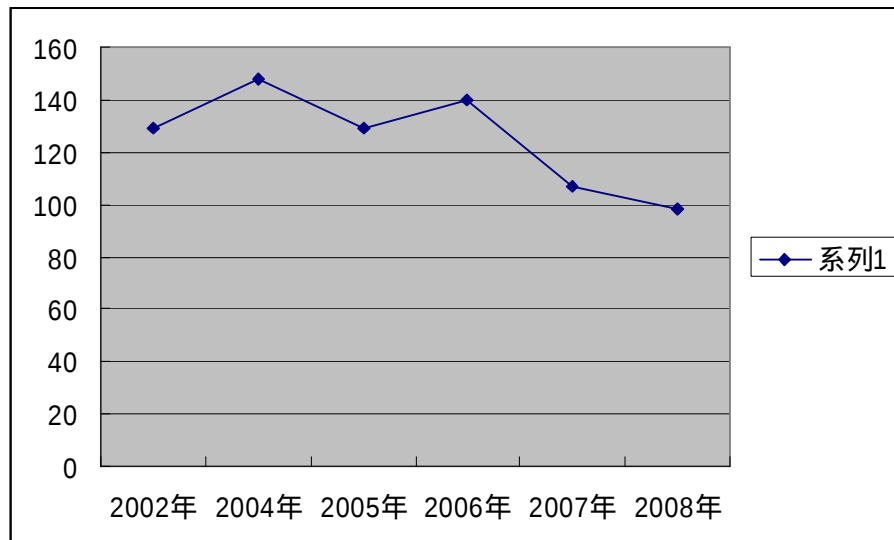
2008 年の営巣数はやや増加し 628 巣 (2007 年は 445 巣) であった。2007 年にヒグマによって雛や卵が捕食された地域において、営巣数が 1 巣に激減していることが確認された。

・ ケイマフリ

海上分布調査における 2008 年の最大カウント数は 6 月 2 日の 98 羽（2007 年は 107 羽）であった。繁殖分布調査は気象条件により十分な調査が出来なかったため、過去の調査等と比較できるデータではないが、2008 年の営巣確認数は 22 巣であった。ブユニ岬では 6 巣しか見つけることが出来なかった。

また、小型観光船がケイマフリの繁殖地において断崖から 100m 以内に接近している事例が多数観察された。

表 ケイマフリの経年変化（2003 年はデータなし）



<コメント>

- ・オオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウについてはヒグマによる捕食が営巣数に大きな影響を与えていることが推察される。
- ・ケイマフリについては観光船による営巣地への接近が影響を与えている可能性が推察される。

<評価>

- ・ウミネコ、ウミウについては昨年度と比較して営巣数の増加がみられたが、ヒグマの侵入により雛や卵が捕食される事例が観察されている。オオセグロカモメは営巣数はほぼ前年と同様の水準で推移している。
- ・ケイマフリの海上分布調査による最大カウント数は近年減少傾向がみられる。